

新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症による世界の死亡者数は400万人を超え、ここ100年間で人類が経験した感染症では最大・最悪のものと言えます。

一方で、どの国においても死亡率は感染者の1～2%で、この死亡率の低さがかえってあだになり、感染者数の増加を招いてパンデミックを引き起こすことになりました。

日本で死亡者が少ないのは、国民の自粛で感染を抑え続けてきたからです。政府のコロナ対策は対処療法的でしかなく、戦略がみえません。感染症対策は「狭く・短く・強く」を基本としなければなりません。

今回、神戸大学医学部附属病院で治療にあたられ、大学院で感染症を教えられている岩田健太郎先生に、Zoomを使ってご講演いただきます。ご質問は事前にいただき、時間の関係上、主催側で取捨選択し、ご対応いただく予定です。

とき

11月13日(土) 午後2時～4時

ところ

プラザホープ 4F (電話：073-425-3335)

※講師は来場されず、Zoomで講演されます。

テーマ

「新型コロナウイルス感染症について」

講師

いわ た けん た ろう

岩田健太郎先生

神戸大学大学院医学研究科 微生物感染症学講座 感染治療学分野 教授

神戸大学医学部附属病院 感染症内科 診療科長

神戸大学都市安全研究センター 感染症リスク・コミュニケーション研究分野 教授

<プロフィール>

1997年島根医科大学(現・島根大学)卒業。沖縄県立中部病院研修医、セントルークス・ルーズベルト病院(ニューヨーク市)内科研修医を経て、同市ベイスイスラエル・メディカルセンター感染症フェローとなる。2003年に中国へ渡り北京インターナショナルSOSクリニックで勤務。2004年に帰国、亀田総合病院(千葉県)で感染症科部長、同総合診療・感染症科部長歴任。2008年より現職。

米国内科専門医、感染症専門医、感染管理認定CIC、渡航医学認定CTHなどに加え、漢方内科専門医、ワインエキスパート・エクセレンスやファイナンシャル・プランナーなどの資格ももつ。

主な著書に、『サルバルサン戦記』『抗菌薬の考え方、使い方Ver.4』、『新型コロナウイルスの真実』『感染症は実在しない』『ぼくが見つけたいじめを克服する方法』『丁寧に考える新型コロナ』、翻訳本で『シュロスバグの臨床感染症学(監訳)』、近刊に『本質の感染症』『文豪と感染症(監修)』等、著書多数。



※新型コロナウイルス感染対策のため、原則Zoomで講演を視聴願います。参加申込みをいただいた方に、Zoom招待URLやID、パスコードをお送りします。

「新型コロナウイルス感染症について」(講師：岩田健太郎先生)

総会記念講演申込フォーム <https://forms.gle/Py9gUbn9D6YDcB2k8>



主催/和歌山県保険医協会

電話：073-436-3766 E-mail：hok-wakayama@doc-net.or.jp

会場用 参加申込書 (FAX:073-436-4827)

お名前	電話
-----	----

Zoom視聴が難しい方は、会場でご視聴いただけますが、先着50名とさせていただきます。